

第1課 成功の秘訣 10月4日

暗唱聖句:ただ、強く、大いに雄々しくあって、わたしの僕しもベモーセが命じた律法をすべて忠実に守り、右にも左にもそれではならない。そうすれば、あなたはどこに行っても成功する。ヨシュア記 1:7

今週の聖句:申命記 18:15~22、ヨシュア記 1 章、ヘブライ 6:17、18、エフェソ 6:10~18、詩編 1:1~3、ローマ 3:31

今週の研究:ヨシュア記は、新しい可能性についての書です。イスラエル史の 40 年間、大きな影響を及ぼしてきたモーセは、すでに過去の存在でした。残念ながら、反逆とかたくなさによって特徴づけられたエジプトからの脱出と荒野での放浪も終わりました。神に従う意志のある新しい世代は、応えるべき期待ではなく、目指すべき可能性として、約束の地に入る準備ができていました。

神がイスラエルの歴史に、いかにして新しい章を開かれたのか、そして神が私たちの人生にも、いかにして同じことをなさりうるのかを研究しましょう。

はじめに:ヨシュア記の主要な目的は、イスラエルが約束の地に入り、その土地を征服し、部族間でそれを分割したことを記すことである。この目的が、この書のメッ セージ、すなわち、アブラハムに約束された土地の約束を果たされる神の誠実さというメッセージの根底にある。この書は、契約の約束に対する神の誠実さを強調している(ヨシュ 21:43~45)。(『アンドリュース聖書注解』365 ページ、英文)。

ヨシュア記は 3000 年以上前に書かれたものですが、私たちが今日生きている世界は、霊的な試練においてヨシュアの時代とそれほど変わらないことを、私たちは共に発見することでしょう。私たちは異なる性質の試練に直面するかもしれませんが、それにもかかわらず、私たちの安全、信仰、そして神がご自分の民に託された使命の遂行を脅かす課題、特に霊的な試練は、存在します。ヨシュアの模範は、私たちの時代に関する神の約束を自分のものとして要求し、彼のように神の力によって成功するよう、私たちを刺激するでしょう。

月曜日:繰り返しになりますが、ヨシュア記には四つの主要な部分があり、それぞれが、存在感のある一つのヘブライ語で表現される具体的な概念によって特徴づけられています。

- (1) 渡る(ヨシュ 1:1~5:12)
- (2) 取る(占領する)(同 5:13~12:24)
- (3) 分ける(配分する)(同 13:1~21:45)
- (4) 仕える(同 22:1~24:33)。

このように、この書の構造自体が、神の取り組みは自動的に遂行されるものではないというこの書の最も重要なメッセージを伝えています。神の民の忠実な応答が必要であるということです。つまり、神が私たちのためにしてくださったあらゆること—私たちが自力ではなしえないことで、神が私たちのために

なされたことも含む—を受けた上で、私たちは自分でできることを行うよう求められているのです。つまり、神の命じられることに従うことが求められています。このことは、聖なる歴史において常にそうでしたし、今日でも変わりません。例えば、黙示録 14:12 の神の終末の民の描写は、同じ考えを伝えていますが、神が私たちのためにしてくださったことへの信仰は、忠実さにつながるのです。

水曜日：今日、キリストから託された使命を果たすうえで、クリスチャンはヨシュアと同様の挑戦に直面しています。つまり、自分自身の罪深い傾向や、この時代の闇の支配者、権力者、支配者、悪の軍勢と戦うことを求められています。ヨシュアのように、私たちにもキリストの臨在という確かな約束があります。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタ 28:20) という約束です。支えとなる主の臨在は、ヨシュアの恐れを消し去るのに十分であったように、今日の私たちの疑いや不安を消し去るのに十分であるはずです。

私たちにとっての挑戦は、主と私たちに対する主の約束を信頼するのに十分なほど主を知ることです。だからこそ、何よりも主との個人的な関係が必要なのです。

木曜日：私たちの身代わりとしての贖罪的・犠牲的イエスの死に対する信仰と、神の律法に従うことを対立させるのは、誤った危険な二項対立を生じさせることになります。律法と恵みは、常に両立するのです。律法の役割を表面的に理解するだけでは、「律法」と「恵み」を相反するものと認識することになってしまいます。

旧約聖書の記者たちは、律法を高く評価し、それを喜びの源とみなしていました(詩編 1:2、119:70、77、174)。律法は、正しく理解され、用いられることで、人の罪深さ(ロマ 7:7)とキリストの義の必要性(ガラ 3:24)を深く理解する助けとなります。

先週まで出エジプト記を学んで来ました。出エジプト記はシナイ山で聖所を作ったところで話が終わっています。その約 40 年間の砂漠での生活を飛び越えて、今期はヨシュア記を学びます。これはモーセに与えられた約束が、ヨシュアの働きによって実際に成就するからです。それまでの遊牧民として生活が、新しい土地を占領して、それを分配して定住の民となっていく過程を今期は学びます。

モーセはイスラエルの民を 40 年間指導者として率いて来ました。ヨシュアはモーセの側にいて、彼の働きを逐一見てきたことでしょう。わたしは働きの最後の 6 年間を老人ホームの施設長として働きました。その前、2 年半は副施設長として、わたしの前任者の施設長の傍らで働いて来ました。けれども実際に新しい責任に就いたら、見ているとやるとは大違いでした。何よりも自らで決断をしなければならないのです。きっとヨシュアも、そのような思いだったのでしょう。そのような時に語られたのが、今週のヨシュア記 1 章です。

このヨシュア記 1 章に書かれている約束を読んで、どれだけ多くの方が励まされたでしょうか。わたしもそのひとりです。これから新しい働きに就こうとする時に、どんな人も不安になります。このヨシュア記 1 章は、まだヨルダン川を渡る前に語られているのです。神さまは働きを始めようとしているヨシュアを力強く励まされました。これから新しい働きに就こうとする時に、どんな人も不安になります。このヨシュア記 1 章は、まだヨルダン川を渡る前に語られているのです。神さまは働きを始めようとしているヨシュアを力強

く励まされました。同じように 12 使徒たちにもキリストは昇天の時に「いつもあなたがたとともにいる」(マタイ 28:20)と約束されているのです。大切なのは「この約束を信じて前進するか」なのです。それを決断するのはあなたです。神さまは信じて前進する人を必ず守られるのです。その記録を今期学んで行きましょう。